

## 2024年度 第1回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

- 日時 2024年5月7日（火） 14時00分～15時55分
- 場所 豊岡稽古堂 3階 交流室
- 出席者（委員） 水落会長、曾根副会長、天野委員、上坂委員、大友委員、川島委員、渋谷委員、田中委員、戸田委員、西垣委員、水田委員、三輪委員、森本委員、吉岡委員
- （事務局） 永井部長、若森課長、佐伯参事、福田主幹、谷垣係長、吉本課長、鳥居所長、向原課長、河本参事、三輪参事、谷口参事、樋口主幹、（株）名豊 吉川
- 欠席者（委員） 小山委員、鈴木委員、永田委員、
- 会議次第
- 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 委員の任命（辞令交付）
  - 4 委員自己紹介
  - 5 議事
    - (1) 報告
      - ア 児童数の推移について 資料2
      - イ 豊岡市まちづくりアンケート～政策モニタリング調査～の結果について 資料3
      - ウ 不登校・ひきこもりの理解と支援のあり方について 別紙1  
～兵庫ひきこもり相談支援センター ドーナツの会より～
    - (2) 協議
      - ア 小中学生アンケートの調査内容について 資料4-1～2
      - イ 若者アンケートの調査内容について 資料5-1～2
    - (3) 意見交換
  - 6 その他
    - (1) 次回の会議日程  
2024年7月8日（月）13:30～ 豊岡稽古堂 3階 交流室
    - (2) 今後の会議日程（予定）  
2024年9月19日（木）13:30～ 大会議室  
2024年11月11日（月）13:30～ 大会議室  
2025年1月20日（月）13:30～ 大会議室  
2025年3月24日（月）13:30～ 大会議室
    - (3) その他
  - 7 閉会

配布資料	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span>	児童数の推移
	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>	豊岡市まちづくりのアンケート～政策モニタリング調査～の結果

資料 4 - 1	小中学生アンケート調査実施要領
資料 4 - 2	小中学生アンケート
資料 5 - 1	若者アンケート調査実施要領
資料 5 - 2	若者アンケート
参考資料 1	豊岡市子ども・子育て会議条例
参考資料 2	豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱
別紙 1	ドーナツの会の取り組み

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	委員の任命	辞令交付（机上配布）
4	委員自己紹介	
5	議事	
	(1) 報告	
	事務局	ア 児童数の推移について <span style="float: right;">資料2</span> (特に質問等なし。)
	事務局	イ 豊岡市まちづくりアンケート～政策モニタリング調査～の結果について <span style="float: right;">資料3</span> (特に質問等なし。)
	委員	ウ 不登校・ひきこもりの理解と支援のあり方について <span style="float: right;">別紙1</span> ～兵庫ひきこもり相談支援センター ドーナツの会より～
	会長	議論することで1人でも多くの子どもの一助になるかと思う。ご意見やご質問やご感想などがあればお願いしたい。
	委員	ひきこもりには2種類ある。自己否定感が強く不登校がそのまま延長して会社勤めになっても続かない場合と、就職氷河期のため非正規雇用にししか就けず、世の中を恨みながら職業を転々とし、生計も立てられないまま同居の親に頼ってひきこもりになっている場合の2種類。公的な支援だけではなく地域支援団体との公私協働支援が必要。松江市には義務教育の期間中ならば自由に登下校し、卒業資格も取得できる不登校児のためのフリースクール制度があるが、そのような公的支援はあるか。 豊岡市の公的支援の実施内容、ドーナツの会の活動範囲外の民間支援団体の活動、また、「公私協働支援」は実施されているのかを教えていただきたい。また、子ども・子育て支援事業計画と新しいこども計画の位置づけについてはどのような方向性なのか。こども計画のほうが、より子どもの立場に立つと考える。今回のアンケート調査結果から若者の意向がわかれば今後の指針の参考になると思うが、どうか。
	事務局	豊岡市の不登校の支援としては、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーによる学校内での支援と、居場所として設置した「子ども支援センター」の「ふれあいルーム」での学校外の支援がある。「ふれあいルーム」の昨年度の実績としては、開所191日に対して、実人員が51名、一昨年度に比べ14名増えている。延べ人員が1,586人で、一昨年度より978人増え、1日平均で5.1人増加している。開所日数の半分を通過して来る不登校児もいるので居場所づくりとして評価をしている。学校の出席日数としてカウントできるので、勉強や子ども同士の交流の場として役立っている。 一方、学校内での支援としては、中学校9校と小学校4校に校内サポートルームを設置し、支援員を配置して教室で学べない子どもの居場所になっている。

会長 私的支援についてはどうか。

委員 ひきこもり支援の窓口としては、健康増進課と、市の委託事業としてのドーナツの会の2つある。ドーナツの会の方が、利用人数が多く、ずっと同じ者が継続して支援できる、学校現場では難しい家族支援を同時に行えることがメリットとなっている。フリースクールは日高町にトイロがあるが、市域が広いので但東町や竹野町などにも子どもたちの居場所があるといい。

事務局 今回は、新しいこども計画の目的である「子どもの立場に立って意見を聞く」という趣旨でアンケートを作成した。アンケート内容としては「居場所はあるのか」「意見を出す機会はあるのか」と「やりたい事ができる環境にあるのか」等で、若者アンケートについては「結婚」や「子どもを持つことに対する希望」などを設問の中心とした。居場所の設問では自己肯定感を探るために文言を工夫し、ひきこもりや不登校のためのニーズ調査とする予定。

事務局 私的な居場所としては、5月6日から大開通りの「だいかい文庫」で毎週月曜日に10代の居場所を開催する。豊岡劇場でも、時期は未定だが木曜日に開始される予定。

委員 ドーナツの会で子育てのためのおしゃべり会を企画している。

委員 コロナ禍に子育て世代と地域との繋がりが断たれ、子ども達は幼稚園年中から4年生まで地域の繋がりがなくまま高学年に進級し、保護者も育成会が再開されるにあたり戸惑いがある。過疎地に住んでいるので、子育てでの繋がりを持つためには子育て総合センターまで行く必要がある。ドーナツの会では、子育ての相談ができる身近な場所として、月に1度開催している。

委員 不登校やひきこもりが増えている原因はなにか。

委員 子ども自身が成長したいという力を持っているのに、子どもの数が少なく母親が関わりを持ちすぎるために子ども自身が自立できないという一面がある。子どもは多くの人と関わることで様々な体験ができるが、現状、両親以外の人に認められる機会が少ないことや人間関係が希薄で地域の大人と触れ合う機会が少ないままに育つことから、集団に溶け込めない、音に敏感だったり、ドキドキしたり等の理由にも繋がっていると思う。

委員 色々な特性を持つ子どもが増えて来ているので、様々な人と関わることは特に必要だと思う。

委員 適応障害と診断された子どもに対しても集団生活が無理だと決めつけるのではなく、学校側が適した環境を作る必要があるが、前を向いて席に座る等、昔ながらの学校体制のまま依然として改善されていないという事は事実だ。

会長 アンケートの調査結果から、子育てに対する市の施策として改善すべき点があることから、今回の不登校と引きこもりの理解と支援については、今後も幼児期基礎的側面を含めて継続的に調査検討すべき事項だと思う。機会があれば今後も共通理解と議論をしていきたい。

## (2) 協議

事務局 ア 小中学生アンケートの調査内容について

資料4-1~2

- 会長 質問事項も多いので時間を設ける。
- 委員 アンケートの対象学年を小学6年生から中学3年生に絞った理由を伺いたい。幼稚園や小学校の低学年の気持ちも訊かなければならないのではないか。
- 事務局 今回は、タブレット端末でのアンケートとしたく、学齢を絞った。
- 委員 5年生以下も保護者の協力を得ながらニーズ把握をすべきだと思うが。
- 会長 小学5年生以下にもアプローチすべきかと思うが、事務局どうか。
- 事務局 検討課題である。
- 委員 小学校に協力してもらい、個人情報に配慮するため無記名の小学校単位でアンケートを実施し、担任に提出してもらおう方法がある。子どもを集めるワークショップを開催し、参加者に希望を聞く機会などを設ければ、漏れなく調査できると思う。枚方市では、幼稚園の園児までアンケートするそうなので、できないことはないと思う。
- 会長 他にはどうか。
- 委員 では、協議事項 ア 小中学生アンケートの調査内容について、原案通りでよいか。
- 全委員 異議なし。
- 会長 異議なしとする。次に移る。
- 事務局 **イ 若者アンケートの調査内容について** 資料5-1~2
- 委員 回答率は何%くらいの予定か。内容が細かくて、質問の意図がわかりにくい。設問を絞るか、回答者には500円券を進呈するなどにしないと若者からの回答率は低いと思う。
- 会長 これまでのアンケートの回収率やアンケートの内容を選択した理由についてどうか。
- 事務局 回答率については20~30%超える程度だと思う。設問内容はすべて、こども計画を策定するにあたって必要な項目なので削ることは難しい。
- 会長 項目を削ることが難しいという事だ。今回の回収率を20~30%で予想しているが、それでデータを完成するという事である。
- 委員 若者たちは孤立感を抱いて生きづらさを持っている。結婚や仕事の質問した後ではなく、問44の「あなたは今幸せですか」という設問をトップに置いて欲しい。
- 会長 質問項目の順番の変更は可能か。
- 事務局 問1から問3はこのままで、この会議で問4に挿入すべきとなればそうすることになる。
- 委員 大学のジェンダーの講義でも学生に結婚についての質問を行うと反発がある。結婚を強要しているのかと。結婚と雇用に関しては設問項目の後方に回した方がいいと思う。また、こうした調査の場合の回収率は30%あれば成立する。大学では回答者にクオカードや500円券を配るが、市では税金の負担になるので検討が必要。回答の漏れに関しては、ワークショップを開いたり、町内会ごとに座談会を設けるという方法である程度網羅できると思う。

	<p>会長 アンケートの項目順により回収率が変動すると思われるので検討が必要。アンケートの回収方法は予算の事もあるので、それを含めて検討してほしいと思うが、事務局どうか。</p> <p>事務局 クオカードの配布は難しいかと思うが、項目の順番は、回答しやすいよう検討する。設問をひとつにまとめる工夫も検討する。</p> <p>会長 他にはどうか。</p> <p>では、協議事項 イ 若者アンケートの調査内容について、原案通りでよいか。</p> <p>全委員 異議なし。</p> <p>会長 異議なしとする。次に移る。</p> <p>(3) 意見交換</p> <p>会長 関係機関や地域の方々に集まっている。市役所の子ども子育て支援関連部署も事務局として出席している。豊岡市の子ども子育て支援について、現在行っている事業についてなどご意見をいただきたい。</p> <p>委員 出生率が下がって子どもの数が減って来ている。竹野町では子どもの減少により祭りなどの行事が中止になっている。子どもの頃の豊岡市での楽しい思い出が沢山あれば、たとえ就職で県外に出てもUターンして子育てのために戻って来る可能性があると思う。</p> <p>会長 地元に戻って来たくても、仕事がなかったり、子育てをしにくい環境ではなかったのか。市政を改善することで戻って来やすくなると思う。</p> <p>委員 子育てしながらの共働き家庭がととも増え、夫と対等でいたいから働いているというお母さんの意見を聞く。ジェンダーの役割に囚われず、地域や近所との繋がりを楽しんで働く姿を子どもたちに見せることが大切だと思う。</p> <p>会長 自身の成長期を考えると親の姿を親ながら成長していることが思い当たる。夫婦間の姿のより良いあり方を自分の子どもにも見せることが次世代の子育ての在り方に繋がると思うので、そのためのきちんとした政策を練ることが必要だと思う。</p> <p>委員 対等という関係は親子も同様。親が子どもを支配するのではなく、子どもを一人の人格を持った人間として尊重することで一緒に喜び合えたり、一緒に楽しめたり、心から共感できる関係性のある地域づくりがとても大切だと思う。病气や子育てができない親もいる。その親に責任を任せるのではなく、サポーターが入り、地域で育てて行く風土が大切だと思う。</p> <p>会長 心から共感できる関係性は、共主体の関係性。子どもと保護者間の中で主体性を持って子育てをして行くとか、こどもが自分の意見を親に言い合える関係が必要だと思う。</p> <p>他にないか。この辺りで意見交換を終えたいと思う。</p>
<p>6 その他</p> <p>(1) 次回の 会議日程</p>	

<p>事務局</p> <p>(2) 今後の 会議日程 (予定)</p> <p>事務局</p> <p>(3) その他 会長</p>	<p>次回の開催は、7月8日(月)の13時30分から、この会場で開催する。</p> <p>次々回以降の開催日程は、記載のとおり。</p> <p>その他、全体をとおして何かあるか。 (特になし)</p> <p>以上で会議を閉じ、進行を事務局にお返りする。</p>
<p>7 閉会</p>	<p>副会長あいさつ</p>